

縮小し続ける社会の中で

会 長 永 沢 弘 (平成29年)

旭交会結成50周年という節目の年度の記念事業や会則改正などを滞りなく終え、大役を果たされた佐々木孝雄前会長からバトンを渡されました。もとより組織を束ねる器量も度量もないので、役員のチームワークと会員の皆様のお力添えを賜りながら、活動を進めてまいりたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

さて、最近、私がお世話になっている職場のとある研修会で、長年各地の地域づくりのアドバイザーやコーディネーターを務めている講師の話を書く機会がありました。人口も税収も縮小し続けるこれからの時代に求められる住民自治の在り方というテーマでした。少子高齢化、人口減少、人口一極集中に歯止めをかけるべく、国を挙げて様々な取り組みをしてきたのですが、人口減少率トップランナーの本県に住む者にとって、改善に向かう気配は一向に感じられません。私が属する自治会はコロナ禍を契機に一層弱体化が進み、ささやかな営みや繋がりが心許ない状況になりつつあります。

このような現状ですので、講師が語る内容は私の心に刺さるものでした。曰く、「今、地域の住民自治を支えている65～74歳は遠からず支えられる側の高齢者になる。また、高齢者のみの世帯が急増する。少子化による税収減、多老化による社会保障費増、インフラ更新による支出増に行政のみの対処は困難。住民自治の再構築が不可欠。」「家族の規模が小さくなり、働き方が変わり、地域の前期高齢者が減少する中で、活動や事業の内容ややり方がそのままでは役員や住民の負担は増すばかり。継承したいのは組織？機能？」「人口や税収が縮小しても地域の営みや住民の生活を充実させる『職充』という考え方が大事になる。」「地域の自治活動の全体量を把握し、会議や活動・事業の見直しや再編をしていく。」「参加者数やイベント開催数ではなく、大切なのは人口が減少しても関わる人の数を増やす人交密度。」

学校の統廃合や役職定年等による新入会員や会費の減少、事業等への参加者数の減少、それに伴う活動や事業の見直しは、県内どの組織でも共通の課題のようです。本会においても、先の総会では会への参加者数が話題に上がりました。また、役員会では会報等を会員宅に届ける地区委員・総会資料等配布担当者の負担解消について協議しています。本会の目的は堅持しつつ、運営面では今後を見据えた思い切った見直しが求められるときを迎えているように感じています。

みんなのために

副会長 猿 橋 薫(令和2年)

この度、佐々木均前副会長(高校籍)の後任としてバトンを引き継ぐこととなりました。佐々木先生同様、中学・高校・行政を経験してきました。本会発展のために精一杯取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、私は現在角館高校非常勤講師3年目となり、孫のような高校生たちと学校生活を送っています。先月開催された合唱コンクールを見て、40数年前の中学校担任時代のことを思い出しました。

その時生徒が選曲したのは超難曲の混声四部合唱「大地讃頌」でした。若かった私は、少しでも生徒の力になりたい一心で、ヤマハのキーボードを購入し意気込んで練習に臨みました。ところが曲の難しさゆえ、何回練習してもいっこうに合唱になりません。クラス全員が困り果ててしまい、「曲変更しよう、できない、難すぎる・・・」という声も。そんなある朝、クラスのT君が「先生、4パートの音をカセットテープに録音してきました。練習で使えるかもしれません！」クラスのために、おそらく徹夜で頑張ってくれたのだと思います。私は嬉しくなり「君は素晴らしい。自分のことしか考えない人間が多い時代に、みんなのために徹夜までしてカセットテープ作ってくれるなんて、本当にありがとう！」と感謝の気持ちを伝えました。本番では、みんなが自信をもって歌い、心を一つにした素晴らしい合唱となりました。そして、準優勝を獲得できたことは今でも忘れられません。

先日、この話を角館高校の生徒に話す機会がありましたが、大きな拍手がわき起こりました。時代は流れても変わらない「みんなのために自分ができることを精一杯頑張る」ことの大切さを、生徒とともに再認識しました。

時間の流れに戸惑いながら…

上 田 満(令和8年)

「弥生時代の始まりが400年早くなってるぞ！」

「『慶安の御触書』がなくなってる！」

「『環太平洋造山帯』が『変動帯』に？」。

この4月より、横手清陵学院中学校で全学年の社会科を担当することになりました。久しぶりに手にした中学校の教科書は、私の記憶にあるものと大きく様変わりしており、教材研究のたびに月日の流れを痛感しています。15年ぶりの教諭生活、16年ぶりの中学校勤務、18年ぶりの中学1年学年主任…「ぶり」づくしの生活は新鮮な反面、戸惑うことも少なくありません。そんな毎日を支えてくれるのは、いつの時代も変わらぬ生徒たちの笑顔と、今でも心に刻まれている諸先輩方から頂いた数々の教えです。…おっと、空き時間が終わりのようです。新しいタブレットを小脇に抱え、1年生の地理の授業へ行ってきます。

よろしくお願いします

藤 田 京 子(令和8年)

令和8年3月をもって退職し、4月より学校教育指導員として業務に当たっています。これまで多くの方々に支えられ、お世話になって参りました。無事に退職を迎えられたことに深く感謝しております。

退職後の大きな変化は、朝の時間に余裕があることです。油断しているとスマホばかり見ている自分がいますので、どう過ごすべきかと思案中です。さて立場が変わり、多くの方が子どもたちのために、学校のために力を尽くしていることを再認識しました。また学校現場では、先生方がそれぞれの立場で努力されていることも痛いほど感じています。これまでの教員生活に感謝しつつ、少しでも現場の先生方のお役に立てることができるよう、毎日を過ごしていきたいと思います。

週末は実家の片付けに

佐 藤 健 司(令和8年)

4月から初任者統括指導教員として週3日勤務する傍ら、毎週実家の後片付けに通っています。今回は、その経験から得たことを少しお伝えします。

まず、家の査定サイトへの安易な個人情報入力には要注意です。査定依頼後、非通知や海外からと思われる電話が数多くかかってきて大変でした。(笑)

また、リサイクルショップは店舗によって買取基準が異なるので、買い取れない物も違う店舗では値が付きました。食器類は未使用確認がとれない物はダメでした。本は量が多いと想像以上に重く、整理に最も苦労した品の一つでした。

さらに、大手の出張買取は価値が明確な品を優先する傾向があり、高価な物は買取店を複数比較することをおすすめします。私の経験では、専門の査定の方がバックヤードにいるお店より、個人のお店の方が相談や交渉がしやすく、思いがけず高い査定になることもありました。これから整理をされる方の参考になれば幸いです。

自分らしいネクストステージに

若 松 昌 平(令和8年)

この3月末、定年延長の流れもありましたが、役職定年を機会に教職生活を終える選択をしました。それから3か月間、家の内外の整理をしながら、これまで任せっきりだったことを反省したり、気にはなっていたものの行けずにいたところにふらっと出かけたり、日々ゆっくりと過ごしました。7月からは、南かがやき教室で支援のお手伝いをしています。

新生活では、体育を専門としていた者として、体力の増進とまではいかないまでも、保持なしにはならないこと、心身の健康のために時間意識だけは失わないことを心に誓い、自分らしいネクストステージを静かに見つめています。

先輩の皆様には、いつもあたたかいお声がけをいただき、感謝しております。この後も、どうかよろしくお願いいたします。

退職後の新生活

畑 朋 幸(令和8年)

校長としての5年間、伊藤孝俊前教育長には学校経営の考え方、校長としての問題への立ち向かい方等、温かくまた親身になって教えていただきました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

退職後、私は南教育事務所のスクールソーシャルワーカー（SSW）として新しいスタートを切りました。児童・生徒、保護者、学校の悩みごとや困りごとの相談を受けたり、子育ての環境を改善するために、様々な専門機関への働き掛けを行ったりする仕事です。人の悩みに向き合うことの難しさを痛感しながらの毎日ですが、今のところ充実した日々を送っております。

横手市退職校長会の皆様には、若い頃から大変お世話になっております。引き続きいろいろな機会にお話を伺わせていただき、多くのことを学びたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

三度目の転機

大 石 照 彦(令和8年)

令和8年3月に役職定年を迎え、今は大森小学校にお世話になっております。教務主任を拝命しこれまでの教職経験を還元できるようにと努めていますが、学級担任の先生方の速いテンポに付いていけず、かなり四苦八苦しております。

振り返ってみますと、私のこれまでの教職人生には、二度の転機がありました。

一度目は、日本人学校に派遣されていた3年間です。すっかり天狗になっていた私の鼻を折って自分を見つめる機会をくださいました。謙虚さを学びました。

二度目は、10年間の指導主事時代です。転機というには長すぎるかもしれませんが、刹那的な思考をしがちだった私に「教師とはこうあるべき」を教えてくださいました。常識を学びました。

ここから定年までの3年間で、「三度目の転機だった」と振り返られるように努めてまいります。さて、今度は何を学べるか楽しみです。

教育現場は今

地域と共に今後も頑張ります

山内小学校は、全校児童73名の小規模校ですが、地域の方や企業の力をお借りして、全校で芋の子を栽培してなべっこ会を楽しんだり、植樹活動や自然素材を使った工作活動などの木育活動に取り組んだり、豊かな自然を満喫しながら本校ならではの教育活動を展開しています。しかし、地域に唯一の小学校でありながら、コロナ禍で交流を制限されていた時代があり、「めっきり子どもの姿を見なくなった。学校でどんなことをしているのか分からない。」との声が聞かれるようになってしまいました。そこで、学校運営協議会の折りに地域と触れ合える活動がしたいと相談したところ、地域と一緒に楽しむ行事を地域局と協力して展開したとの提案をいただき、本校独自の運動会や学習発表会という行事が誕生しました。

春の運動会。色別応援合戦や色別対抗リレーなどの花形種目はもちろんありますが、地域参加種目「くつし玉入れ」があります。靴下を丸めて玉を作り、籠めがけて投じます。柄違いはカウントされません。公民館だよりや防災無線で本校の運動会をPRいただいたお陰で周知され、年々参加者が増えています。今年は枠の外側で玉を作る大人と、枠の内側から入れる幼児とが、ペアになる作戦を立てて参加する地区もありました。運営する職員も少ないため、卒業生がボランティアとして用具係等の運営に活躍してくれることも自慢です。



秋には、地域の文化祭と学習発表会が1つになった「やまばと文化祭」があります。1年目は本校を会場に午前の部が学習発表会、午後の部が地域文化祭でしたが、去年は、午前の部に地域のハンドベル演奏や、会場が一つになって「豊かな山河（旧村民歌）」の大合唱をしました。午後の部に児童の有志が地域演目「御嶽清流太鼓」で共演しました。午後から教室の一部と多目的ホールを開放し、横手やきそばの販売、抹茶体験に駄菓子屋さん、民生児童委員主催のカフェ、児童と地域の方の作品展を実施したところ、たくさんの方に来校いただき、交流を図ることができました。3年目の今年は、さんない保育園児の演目も実現できる予定です。

年々児童数が減少し、来年度は複式学級が1つ生まれ、特別支援学級が1つ廃級することが決まっています。「井の中の蛙」になりがちな児童が、地域に出て輝く姿を見ると誇らしいです。地域と一緒に展開できることは、多少の働き方改革に貢献できているようです。地域と共に今後も頑張ります。

横手市立山内小学校 校長 桐原悦子



令和8年度は6名の新会員をお迎えし、会員数211名(うち名誉会員数52名:4月1日現在)で本会がスタートしました。

今年度の総会は、議長:阿部和夫先生の下で円滑に報告・協議が進められましたが、その中で、「総会」や「教育を語る会」への参加者の減少が話題に上がりました。会を運営する側としては、参加者が増えてくれることを期待しているところですが、参加者の顔ぶれが固定化し、やや減少傾向にあるのが現状です。魅力ある方に講話・講演をお願いすることで、参加してくださっている方々の満足度は高いものがありますが、新たな参加者の増加には結び付いていません。若い会員や女性会員の参加も少なく、退職校長会の活動意義の確認不足、趣味や娯楽等の多様化、他の行事との重複、家庭環境の変化、懇親会費の高騰など、様々な要因が考えられますが、それらの課題にうまく対応できていない状況にあり、皆様のご意見を伺うことができれば幸いに思います。

そんな中でも、仲間でゴルフやスキーに出かけている、様々な分野(絵画、書、短歌、写真、音楽活動、サイクリング、サークル活動、ボランティア活動など)で会員の皆さんが躍動しているという話を耳にする時、うれしさとうらやましさを感じます。また、表には聞こえてこなくても、今まで苦勞を共にしてきた家族のためや自分の生きがいのために活動されている方もいらっしゃると思います。退職校長会が開催する年2回の会が、そんな皆さんの交流や情報交換の場となり、横や縦のつながりが広がり、参加してくださった方の次の日からの元気の一助になってくれれば、事務局としてありがたく思います。

会員ギャラリー

Classical Guitar & Golf



クラシックギターの調べ
(金沢孔城館)

合奏を夢見て… 菊 谷 隆 志(平成25年)
数年前から三重奏で弾きたい曲がある。ロシア民謡「オリエンタル・ダンス」。(二重奏でも可) どなたか一緒にやりませんか。連絡乞う!



県250歳ゴルフ大会
ザ・オモノガワ 優勝

今年も会えました 土 田 充(令和3年)

ジーン・サラゼン(四大メジャー制覇者)監修コースの栃木県口ペ倶楽部を毎年末訪問し、健康づくりと仲間づくりに励んでいます。

編集後記

今号も原稿等の依頼を快く引き受けてくださった皆様の懐の深さで、無事にお届けすることができました。会報編集委員一同、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

3月まで放送していたNHKの朝ドラ『ばけけ』。その最終回に、「他愛もない、ほんに他愛もない、すばらしい毎日だっただない。でしょ?」という主人公トキの母フミのセリフがありました。トキと亡き夫ヘブンとの日々を振り返って、愛娘トキに語りかけたものでした。気にもとめない、取るに足らない、そういう日々が「すばらしい」というのです。ドラマの世界に没入しつつ、何気ない日常の愛おしさが胸に沁みだしたことを憶えています。皆様にとって、今日も穏やかな一日になりますようご祈念いたします。

(会報編集委員会)